

JIS

自動車部品－電気・電子機器の環境条件 及び試験法－第2部：電気負荷

JIS D 1626-2 : 2026
(ISO 16750-2 : 2023)
(JSAE)

令和8年3月23日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 構成表

	氏名	所属
(部会長)	田 辺 新 一	早稲田大学
(委員)	安 部 泉	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	江 坂 行 弘	一般社団法人日本自動車工業会
	大 瀧 雅 寛	お茶の水女子大学
	奥 野 麻衣子	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社
	片 山 英 樹	国立研究開発法人物質・材料研究機構
	鐘 築 利 仁	一般財団法人日本規格協会
	鎌 田 敏 郎	大阪大学
	倉 片 憲 治	早稲田大学
	越 川 哲 哉	一般社団法人日本鉄鋼連盟
	小 山 明 男	明治大学
	是 永 敦	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	椎 名 武 夫	千葉大学
	寺 家 克 昌	一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会
	高 津 章 子	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	高 辻 利 之	一般社団法人日本計量機器工業連合会
	田 淵 一 浩	一般財団法人日本船舶技術研究協会
	俵 木 登美子	一般社団法人くすりの適正使用協議会
	水 流 聡 子	東京大学
	廣 瀬 道 雄	一般社団法人日本鉄道車輛工業会
	星 川 安 之	公益財団法人共用品推進機構
	細 谷 恵	主婦連合会
	増 井 慶次郎	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	山 内 正 剛	国立大学法人信州大学

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 8.3.23

官 報 掲 載 日：令和 8.3.23

原 案 作 成 者：公益社団法人自動車技術会

(〒102-0076 東京都千代田区五番町 10-2 五番町センタービル TEL 03-3262-8211)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 田辺 新一)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省イノベーション・環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	2
2 引用規格	2
3 用語及び定義	2
4 試験及び要求事項	2
4.1 一般	2
4.2 直流電源電圧	3
4.3 過電圧試験	5
4.4 交流電圧付加試験	8
4.5 電源電圧緩増減試験	12
4.6 電圧急変動試験	13
4.7 逆極性電圧試験	24
4.8 基準接地及び電源オフセット試験	26
4.9 回路開放試験	28
4.10 短絡／過負荷保護試験	30
4.11 耐電圧試験	32
4.12 絶縁抵抗試験	33
4.13 電磁両立性	33
5 文書化	34
附属書 A (規定) 試験ロードダンプパルスジェネレータの検証手順	35
附属書 B (参考) 自動車の電気システムにおけるロードダンプパルスの発生源	36
解 説	38

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、公益社団法人自動車技術会（JSAE）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

JIS D 1626 規格群（自動車部品－電気・電子機器の環境条件及び試験法）は、次に示す部で構成する。

JIS D 1626-1 第 1 部：一般（予定）

JIS D 1626-2 第 2 部：電気負荷

JIS D 1626-3 第 3 部：機械負荷（予定）

JIS D 1626-4 第 4 部：気候負荷（予定）

JIS D 1626-5 第 5 部：化学負荷（予定）

自動車部品—電気・電子機器の環境条件及び試験法

—第2部：電気負荷

Road vehicles—Environmental conditions and testing for electrical and electronic equipment—Part 2: Electrical loads

序文

この規格は、2023年に第5版として発行されたISO 16750-2を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本産業規格である。

なお、この規格で点線の下線を施してある参考事項は、対応国際規格にはない事項である。

ISO 16750-2の第4版から、主に次の事項について改訂を行っている。

前記ISO 16750-2第5版は旧版（ISO 16750-2第4版）からの改正に当たって、主に次の点について技術的内容を更新している。

- 電気試験のためのオペレーティングモードの使用の導入
- 関連するテストケースに冗長電源を使用するコンセプトの導入
- 直流電源電圧試験の詳細な仕様
- ジャンプスタート試験（室温での過電圧試験）の詳細な仕様
- 過渡過電圧試験の導入
- 重畳交流電圧試験の完全な更新（例：試験方法の更新、周波数範囲の200 kHzへの拡張など）
- 電源電圧の緩やかな減少及び増加の試験の詳細な仕様
- 電源電圧試験における微小中断の導入
- 電圧降下試験時のリセット動作の詳細な仕様
- プロファイル試験を開始する際の重大度レベルの説明
- 電圧試験の詳細な仕様
- 接地基準及び電源オフセット試験の詳細な仕様
- 単線遮断試験は、静的割込み（単一の割込みイベント）及び動的割込み（複数の割込みイベント、すなわち、バースト）の二つのテストケースに分割
- 短絡保護試験を短絡試験及び過負荷保護試験に変更。テストケースの詳細な仕様。負荷回路の過負荷テストケースの導入
- ロードダンプパルスの発生源の詳細な説明は、**附属書 B**に記載
- 編集上の様々な更新及び説明